

中学校 英語
CAN-DO リスト
作成のヒントと実践例

CAN-DO リストについて……	2
CAN-DO リスト実践例①……	8
CAN-DO リスト実践例②……	12

CAN-DO

三省堂

CAN-DO リストについて

根岸雅史 (東京外国語大学)・工藤洋路 (駒沢女子大学)

1. 「CAN-DO リスト」の概要

1 「CAN-DO リスト」とは

CAN-DO リストとは、CAN-DO ディスクリプタ (can-do descriptors) と呼ばれる、「英語のできる行動 (actions)」を記したものをリスト化したものです。通常の CAN-DO リストには、英語の各技能について、能力の習熟度を表すレベルごとに「英語のできる行動」が記載されています。

CAN-DO リストが言語教育において認知され、その意義が認められるようになった背景には、Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment (「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠」、以下 CEFR) の世界的な広まりがあります。

レベル	PreA1	A1.1	
聞くこと	ゆっくりはっきりと話されれば、日常の身近な単語を聞きとることができる。	当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。	趣味、遊び、話り、解る。
	英語の文字が発音されるのを聞いて、どの文字かわかる。	日常生活に必要な重要な情報(数字、品物の値段、日付、曜日など)を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞きとることができる。	日記、をどきやなど。
理			

図 CEFR-J (下記参照) の CAN-DO リストの抜粋

2 「CAN-DO リスト」作成の取り組みの背景

全国各校での「CAN-DO リスト」作成の取り組みは、2011年6月に発表された「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」の中で、「中・高等学校では、各学校が、学習指導要領に基づき、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を『CAN-DO リスト』の形で具体的に設定すること」という提言がなされたことによって始まりました。

このねらいとしては、「学習指導要領の内容を踏まえた指導方法や評価方法の工夫・改善」や、「すべての子どもたちの英語力の水準向上」、「小・中・高が連携した英語教育の実現」などが挙げられています。

3 「CAN-DO リスト」を作るための資料

* 紹介する資料の詳細は巻末ページを参照

CAN-DO リスト作成のための資料として、以下のものが参考になります。

マニュアル

『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』(文部科学省初等中等教育局, 2013年, 以下『手引き』)

既存の「CAN-DO リスト」

- CEFR-J …CEFRを日本の英語教育の中で利用するために開発されたもの。
- 英検 Can-do リスト …英検の級ごとに、各技能についての CAN-DO ディスクリプタがある。
- GTEC for STUDENTS can-do statements
…ベネッセコーポレーションの GTEC for STUDENTS のグレードごとに、各技能についての CAN-DO ディスクリプタがある。

4 「CAN-DO リスト」と実際の授業や教科書との関係

既存の CAN-DO リストは特定の授業や教科書に対応するものではないため、実際に活用可能な CAN-DO リストを作るには、生徒の実態や教科書などを考慮しながら、長期的および中期的な到達目標を CAN-DO リストの形式で設定するという作業が必要です。

例えば、「趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる」(CEFR-J の A1.3 より) を学年目標とした場合、「趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて書く」ことに直接つながる活動が教科書にあるかどうか確認し、ない場合は、①この目標を設定しない、②「友達のことについて複数の文を用いて書く」活動が教科書にあるので、目標のディスクリプタをそのように修正する、③目標に合わせて、教科書にはない自作の言語活動を実施する、などの方法で、最終目標とする CAN-DO ディスクリプタを決定します。

注意点

- 教科書は「文法シラバス」で構成されています。「新出文法事項の理解および活用」といった目標は、CAN-DO リストの意図とは異なることに留意する必要があります。
- 言語を用いた結果、「どんな行動ができるか」を示すのが CAN-DO リストの役割です。「行動」とは、「学習指導要領」でいうところの「言語の働き」(例：苦情を言う、約束する、招待する、など)を、ある目的の達成のために、いくつか組み合わせて遂行することと考えてよいでしょう。

5 評価規準と CAN-DO リストの関係

前述の『手引き』p.37 には、以下のような Q&A が掲載されています。

27. 観点別学習状況の評価における単元の評価規準を「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標として使ってもよいのですか。

本手引きにおいては、言語を用いて「～することができる」という形(「CAN-DO リスト」の形)で、学習指導要領の外国語科及び外国語科の各科目の目標に基づく学年ごとの学習到達目標を設定することを推奨しています。

したがって、観点別学習状況の評価における単元の評価規準がそのまま「CAN-DO リスト」の形で設定する学習到達目標となることは考えにくく、年間を通じて、複数の単元における学習を通して、ある学習到達目標を達成することになります。

単元の評価規準は教科書などの教材の内容等に応じた実際の学習活動を踏まえた具体的なものが想定されますが、学年ごとの「CAN-DO リスト」の形の学習到達目標は、年間の指導を通じて達成されるものであり、より抽象度の高いものとなることが考えられます。

つまり、以下のような違いがあるので、それぞれについて設定する必要があります。

- CAN-DO リスト →卒業時・学年終了時などの長期的な学習到達目標、抽象度は高い
- 評価規準 →単元ごとの実際の学習活動を踏まえた具体的なもの、抽象度は低い

なお、CAN-DO ディスクリプタ自体は、「行動」、つまり「技能」に関わる「外国語理解の能力」および「外国語表現の能力」の評価の観点には利用可能ですが、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」および「言語や文化についての知識・理解」の評価の観点には、直接的な利用はできません。



2. 「CAN-DO リスト」の作成手順



CAN-DO リストは、次のような手順を踏んで作成するとよいでしょう。作成の際は、担当教員の全員が参加し、生徒の実態を踏まえたうえで、指導と評価の方法を共有することが、『手引き』では推奨されています。

STEP 1 ▶ 長期的・中期的な到達目標を考える

卒業時・学年終了時に何ができるようになっていくことを目標にするか（到達目標）を考える。

- Listening, Reading, Speaking, Writing のそれぞれについて考える。
- Speaking は「やりとり」と「発表」に分けて考えるとよい。
- 最初は、各技能につき、2つか3つ程度のディスクリプタを作成することから始めるとよい。

(例) 2年終了時 Writing の場合

- ・自分のよく知っている事柄に関する質問の手紙に、簡単な返事を書くことができる。
- ・自分の住んでいる町について尋ねる友達からのメールに返事を書くことができる。

CEFR および CEFR-J から学ぶべき視点①－ 4 技能ではなく 5 技能



CEFR では、技能を 4 種類ではなく、5 種類に分類しています。それは、「話す」ことを、「やりとり (interaction)」と「発表 (production)」に分けているからです。スピーチを代表とする「発表」型の活動が多い日本の中学校においては、「話す」ことの能力の半分しか扱っていないことになるので、「やりとり」型の活動を個別に設定する必要があるでしょう。

STEP 2 ▶ 他の CAN-DO リストを参考にする

既存の CAN-DO リストを参照する。

(例) Writing に関する既存の CAN-DO ディスクリプタ

- **CEFR-J A1.2**
「簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと（好き嫌い、家族、学校生活など）について短い文章を書くことができる。」
- **英検 Can-do リスト 3 級**
「自分のことについて簡単な文章を書くことができる。」
- **GTEC for STUDENTS can-do statements Grade 2**
「絵はがきやカードに簡単な英語のメッセージを書くことができる。」

STEP 3 ▶ 言語活動を振り返る

それぞれの技能について、次の観点で、どのような言語活動を取り入れているのか振り返る。

- ①教科書ではどんな言語活動に取り組んでいるか。
- ②教科書以外ではどんな言語活動に取り組んでいるか。

STEP 4 ▶ 到達目標へのロードマップを描く

到達目標に言語活動を関連付ける。

(例) 到達目標と NEW CROWN の言語活動を関連付ける場合

到達目標	自分のよく知っている事柄に関する質問の手紙に、簡単な返事を書くことができる。／自分の住んでいる町について尋ねる友達からのメールに返事を書くことができる。
教科書における、直接関連のある言語活動	Lesson 4 : USE Write 町の名所を紹介しよう Lesson 6 : USE Write 問い合わせの手紙を書こう Lesson 8 : Mini-project 3 (Write) あなたが行ってみたい国についてメモを書こう
下支えとなる学習活動	毎レッスンの GET Drill (Write) / GET Practice (Write)

STEP 5 ▶ CAN-DO ディスクリプタのチェック

ディスクリプタに、受容技能の場合は「①タスク, ②テキスト, ③条件」があるか、発表技能の場合は「①パフォーマンス, ②質, ③条件」があるかをチェックする。

(ディスクリプタの完成例)

自分の住んでいる町について尋ねる友達からのメールに、②簡単な内容であれば、③辞書を用いて①返事のメールを書くことができる。

CEFR および CEFR-J から学ぶべき視点②ーディスクリプタの構成要素



各技能のディスクリプタを作成する際は、下記のように構成要素を個別に作ってから統合するとよいでしょう。構成要素の中の1つの記述を変化させるだけで、該当する活動の難易度や複雑さを調整できます。

技能	構成要素	例
受容技能	全体 (CEFR-J, B1.1 より)	自分の周りで話されている少し長めの議論であっても、はっきりとなじみのある発音であれば、その要点を理解することができる
	task	議論の要点を理解することができる
	text	自分の周りで話されている少し長めの議論
	condition	はっきりとなじみのある発音であれば
発表技能	全体 (CEFR-J, B1.1 より)	個人的に関心のある具体的なトピックについて、簡単な英語を多様に用いて、社交的な会話を続けることができる
	performance	社交的な会話を続けることができる
	quality	簡単な英語を多様に用いて
	condition	個人的に関心のあるトピック

※「CAN-DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック」(投野由紀夫編, 大修館書店) をもとに作成



3. 「CAN-DO リスト」活用のためのチェックポイント



CAN-DO リストを作成したら、以下の観点をチェックしてみましょう。



「学習活動」でなく、「言語活動」を書いているか

言語を用いて「どんな行動ができるか」を示すのが CAN-DO リストです。学習活動を書かないように注意しましょう。

【× 学習活動の例】

- ・教科書に出てきた単語の意味がすべて言える。
- ・教科書で学んだ文法についてすべて説明できる。



「行動」について明確に書かれているか

テスト得点や数値（WPM や単語数）は「行動」ではありません。そうした数値を実現するためには、どんな「行動」ができるようになるかを考え、CAN-DO ディスクリプタを明確に書く必要があります。ただし、指導する側の共通理解として、例えば「どのような条件であればどの程度できるか」など、目標達成にあたっての数値的な目安を共有することはあるかもしれません。



「テキスト」や「条件」などへの言及があるか

CAN-DO ディスクリプタに記述されているのが、「タスク（行動）」や「パフォーマンス」のみのケースがあります。この場合、「テキスト」「質」「条件」についての記述がないために、CAN-DO ディスクリプタの精度が低くなっているため、調整する必要があります。

例えば、読むことの CAN-DO ディスクリプタが、次のようになっていることがあります。

- (中1) 物語を読んであらすじを理解できる
- (中2) 物語を読んで概要を理解できる
- (中3) 物語を読んで概要・要点を理解できる

ここでは、読むことの発達が見えません。このような場合は、それぞれの学年の「物語」は、対応する学年の言語材料を暗黙の前提としていたりするので、それぞれの文章がどのような「レベル」「特性」を持ったものかを規定する必要があります。具体的には、それぞれ学年に対応する「ベンチマーク・テキスト」を実際のテキストで用意するとよいでしょう。

※ただし、精度を求めず、大綱的に作るのであれば、すべての要素を含める必要はありません。

✓ CAN-DO ディスクリプタに該当する「言語活動」をやっているか

CAN-DO リストの形で学習到達目標を設定していても、そのディスクリプタに該当する「言語活動」をやっていないケースがあります。「言語活動」がなければ、そもそも目標の達成は期待できません。

以下についてチェックしてみましょう。

- ①教科書に該当する「言語活動」があるか。
- ②教科書に「言語活動」があってもとばしていないか。
- ③教科書以外の「言語活動」では、どんな活動に取り組んでいるか。

また、「英語で行っている授業」でも、言語活動ではない場合があるので、注意が必要です。例えば、音読やセンテンス・レベティションなどをその指示を含めて「英語で」やっても、それ自体は「言語活動」ではありません。

✓ 生徒は本当に「できる」のか

指導を受けながらの言語活動では、生徒たちが実際に自分の力で「できた」とは言えません。また、生徒たちは、ある言語材料を学んだ直後であれば、言語活動の中でそれらを使えるのかもしませんが、時間をおいてからも使えるとは限りません。

生徒たちが自分の力でできる、適切な言語活動による到達目標を設定する必要があります。

✓ 評価は CAN-DO リストに合わせたものになっているか

CAN-DO リストは学習到達目標を設定して、その達成状況を把握するためのものです。しかしながら、そもそも達成状況を把握するための評価（テスト）を行っていないケースがあります。また、評価を行っていても、それが CAN-DO リストに合っていない場合があります。

「話すこと」の CAN-DO ディスクリプタがあるのであれば、当然「話すこと」の評価を行う必要があります。また、「書くこと」で「メールを書くことができる」となっているのに、和文英訳のテストを行っている場合も、整合性に欠けることになります。さらに、「読むこと」や「聞くこと」が既習のテキストを用いたテストとなっているとすれば、「本来つけようとしている力」を見ることができないので、それも問題です。CAN-DO リストの作成と同時に、学習到達目標の達成をいっどう見るかという評価計画の作成も重要です。

実践

例 ①

「CAN-DO リスト」で何が変わる？ 何を変える？

山本祐司（滋賀県愛荘町立愛知中学校）

1 「CAN-DO リスト」って何!?

① 求められていること

2011年6月、「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」によって、「CAN-DO リスト」を各中・高等学校で設定することが提言されました。正直なところ、「それ、何？」が私の最初の一言でした。また、同じ教育課程で学習する中学校において、学校ごとに目標設定をすることの意味がよくわかりませんでした。

しかし、前述の提言を読むと、以下のように書かれていることがわかります。今ではかなり周知されているとは思いますが、このことを十分に理解しておく必要があります。

中・高等学校では、各学校が、学習指導要領に基づき、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を「CAN-DO リスト」の形で具体的に設定することにより、学習指導要領の内容を踏まえた指導方法や評価方法の工夫・改善が容易になる。

提言が求めていることは、以下のことです。

- ・学習到達目標を具体的に設定すること
- ・指導方法や評価方法の工夫や改善を図ること

「CAN-DO リスト」という言葉だけが先行すると、その作成や公表が求められていることばかりに気をとられ、本来の意義を見失ってしまうかもしれません。「CAN-DO リスト」の作成では、単にリストを作成することが目的ではなく、中学校3年間の学習到達目標を具体的に設定することが求められているのです。そして、それを単元や授業の目標とリンクさせることによって、指導方法や評価方法の工夫や改善をしていくことが必要なのです。

② 目標と指導と評価の一体化

今求められている「CAN-DO リスト」は、各学校で作成する年間指導計画とは性格が異なります。年間指導計画は「どの時期にどの内容を指導するか」を示すものですが、「CAN-DO リスト」では「生徒が言語を用いて何ができるようになるか」ということが示されるため、それを達成させるための様々な言語活動が授業で行われるようになります。例えば、文部科学省の『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』には、以下のような目標設定例が示されています。

聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。
(高等学校コミュニケーション英語Ⅲ「話すこと」)

このような学習到達目標を設定したとすれば、授業で行う生徒の活動が見えてきます。

- ・英語を聞いたり読んだりする活動
- ・英語で学んだり経験したりする活動
- ・英語で情報や考えなどをまとめる活動
- ・英語で発表する活動

この場合、学習到達目標は「まとめる・発表する」ことですから、「まとめる・発表する」という活動（指導）が設定され、「まとめる・発表する」という生徒の活動が評価されることとなります。これが「目標と指導と評価の一体化」です。授業を計画する上で、目標と指導と評価は1つのものとして考えられなければなりません。「CAN-DO リスト」の活用により、生徒の活動を主体とした授業への改善を図ることが求められているのです。

2 「CAN-DO リスト」による指導計画

①滋賀県モデル「CAN-DO リスト」の活用

2013年4月に滋賀県教育委員会は滋賀県モデル「CAN-DO リスト」を、県内全中・高等学校に配付しています。これは、中・高等学校6年間の学習到達目標を4技能ごとに12段階で示したもので、レベル6を中学校卒業時に到達すべき目標と考えて授業を進めています。

	「読むこと」
12	社会性の高いテーマを扱った物語や説明文を、140WPM程度の速度で読み進め、読み取った事実や情報の論理的な関係を理解し、文章の詳細を理解したり筆者の意図をくみ取ったりすることができる。
11	社会性の高いテーマを扱った物語や説明文を、130WPM程度の速度で読み進め、概要や要点をとらえたり、目的に応じた読み方をしたりすることができる。
10	社会性の高いテーマを扱った物語や説明文を、120WPM程度の速度で読み進め、概要や要点をとらえたり、目的に応じた読み方をしたりすることができる。
9	比較的社会的性の高いテーマを扱った物語や説明文を、110WPM程度の速度で読み進め、必要な情報を読み取ったり概要や要点をとらえたりすることができる。
8	身近な暮らしにかかわる事柄に関するまとまりのある説明や物語を、絵や写真、注釈を参考にせずに100WPM程度の速度で読み進め、必要な情報を読み取ったり概要や要点をとらえたりすることができる。
7	身近な暮らしにかかわる事柄に関するまとまりのある説明や物語を、絵や写真、注釈などを参考にしながら80WPM程度の速度で読み進め、概要や要点をとらえたりすることができる。
6	平易なまとまりのある文章を、絵や写真、注釈などを参考にせずに50WPM程度で読み進め、文章の詳細を理解することができる。
5	平易なまとまりのある文章を、日本語の注釈を参考にしながら読んで文章の詳細を理解することができる。
4	平易なまとまりのある文書を、それに関する絵や写真を参考にしながら読んで、概要や要点をとらえることができる。
3	簡単な短い文章や対話を、それに関する絵や写真を参考にしながら読んで理解することができる。
2	身近な暮らしにかかわる事柄を表す簡単な文や対話を、それに関する絵や写真を参考にしながら読んで理解することができる。
1	アルファベットの大文字・小文字を理解することができる。身近な暮らしにかかわる単語について、実物やそれに関する絵や写真を参考にしながら読んで、その単語の意味を理解することができる。

②能力記述文の構成

滋賀県モデル「CAN-DO リスト」は、能力記述文が以下のように構成されています。それを活用することで、授業でどのような言語活動を設定するかを考えることができます。

Task	— どのようなことをするのか
Text	— どのような英語を使って
Condition	— どのような条件や状況で

③学習到達目標からの言語活動の設定

平易なまとまりのある文章を 絵や写真、注釈などを参考にせずに 50WPM程度で読み進め、 文章の詳細を理解する	Text Condition Task
--	---------------------------

まずは、textを考えます。中学校では、教科書の指導を通して、4技能を総合的に育成することが求められます。教科書の英文を読むことを活動の中心とし、英文読解をしていく上で他の技能を用いた活動を設定していくことがよいと考えています。扱うtextは「教科書の本文」です。

次に、conditionです。「絵や写真、注釈を参考にせずに」が目標ですが、逆に考えると、滋賀県モデル「CAN-DO リスト」が示すとおり、「絵や写真、注釈を参考にしながら」読むことを段階的に取り入れることとなります。また、「50WPM程度で」と、読むスピードが要求されています。教科書1ページが100語程度と想定すると、2分程度でその英文を読んで理解することが必要となり、活動の時間設定の目安とすることができます。

最後に、taskです。これは最も大切です。なぜなら、学習到達目標は「文章の詳細を理解する」ことであり、「文章の詳細を理解できたかどうか」が評価の対象となるからです。ですから、「どのような読みかたで文章の詳細が理解できるようになるのか」が指導のポイントになります。

そこで、3年生卒業時まで継続的に行う活動を具体的に考えながら、本校では次のような学習到達目標を設定しました。

教科書の英文を3分程度で読み、文章の詳細を理解することができる。

評価では、「生徒がどのような状態になれば理解していると言えるか」を具体的にイメージする必要があります。発表させるのか、書かせるのか、書くのは英語か日本語か、こういったことを考えていくことが、学習到達目標を達成させるための活動の設定につながります。評価では、「生徒の何をどのように評価するのか」が明確になっていなければなりません。

3 「CAN-DO リスト」を活用した実践例

① 「5W1H Reading」の実践

滋賀県モデル「CAN-DO リスト」を参考に、学習到達目標を設定した上で、具体的な活動プログラムを考えます。目標は「教科書の英文を3分程度で読んで詳細を理解する」ことですから、「英文を読む」という活動が中心となります。ここで、英文の5W1Hに着目しながら英文読解を進める「5W1H Reading」を紹介します。

①速読「あらすじ Reading」	大意の読み取り
②精聴「ゆびおい Listening」	音声と文字の一致
③音読「いろいろ Reading」	
④筆写「ひたすら Writing」	詳細の読み取り
⑤精読「辞書ひき Reading」	

教科書を開け、「あらすじ Reading」と名付けた3分間の黙読をします。3分という時間は、滋賀県モデル「CAN-DO リスト」に示されたWPMを参考に、何度か繰り返して読めるよう設定しています。生徒は英文を読みながら、「いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どう思ったか」をプリントにメモしていきます。この5W1Hへの着目は⑤の活動まで続けさせ、途中で読み取れたことがあれば、どんどんメモを増やしていきます。最初に黙読をさせるのは、英文を読むことに音声の情報ではなく、文字から意味を理解する必要があると考えるからです。

次に、文字で指を追いながらの「ゆびおい Listening」、英文を音読する「いろいろ Reading」、さらには英文をノートに写す「ひたすら Writing」を通して、音声と文字の一致を図ります。英文を聞くときには必ず指で追うように指導すると、生徒の集中力が高まります。「最後まで追えるか？ 英文ゆびおいゲーム！」といった感覚で取り組ませると、生徒はとてものがんばります。「いろいろ Reading」では、範読に続くリピートやRead & Look Upなど、さまざまな形の音読活動を行います。「ひたすら Writing」はひたすら筆写をするだけですが、授業に集中できない生徒や英語を苦手と考える生徒には特に効果があります。なぜなら、誰でもできる活動だからです。5分程度の時間設定をして、繰り返し

本文を写すように指導します。個人差の大きい活動ですが、時間で区切ることで「5分間がんばって نوشتした！」と全員が実感できます。

最後に「辞書ひき Reading」です。教科書が示す新出語彙を調べるのではなく、英文を読んで「どうしても意味がわからない語彙」を調べるように指導します。そうすると、生徒は「自分が英文を理解するために必要な語彙」を辞書で確認するようになります。機能語よりも内容語、前置詞よりも名詞や動詞に着目するようになるのです。辞書指導で「辞書ひきレース」などは、野球で言うところの「素振り」にあたるでしょう。その指導は必要ですが、「素振り」ばかりしていても実戦でのボールは打てるようにはなりません。この活動での辞書活用の実戦にあたるのは、実際に英文を読み、内容や文法を考えながら、語彙の正しい意味を見つけることです。

②目標の設定

本校では「5W1H Reading」を継続的に実践するにあたり、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を設定しました。「英文を読んで詳細を理解する」を最終目標にして、4段階の目標を設定しています。

4	教科書の英文を3分程度で読み、文章の詳細を理解することができる。
3	教科書の英文を3分程度で読み、音読活動などを通して、文章の詳細を理解することができる。
2	教科書の英文を3分程度で読み、辞書などを活用することで文章の詳細を理解することができる。
1	教科書の英文を3分程度で読み、内容の解説を聞いて、文章の詳細を理解することができる。

このように具体的な学習到達目標を設定しておくことで、生徒がどの段階で英文を理解しているのかを把握することができます。しかし、このような毎時間取り組む活動においては、すべての時間ですべての生徒の理解度を評価する必要はないかもしれません。なぜなら、生徒の理解度は英文の難易度などの要素に左右され、レベル1から4を「行ったり来たり」する可能性があるからです。生徒の評価は、単元や授業の目標に合わせて行うとよいと思います。

③評価の方法

現在、「5W1H Reading」では「日本語3文で英文の内容を要約する」という活動で、文章の理解度を評価しています。Q&Aで内容理解を確認したり、英語で要約させたりすることで評価することも考えられますが、「内容は理解しているが英語を書くときに間違っただ」ということがあるため、まずは日本語での要約をさせています。この要約文を見ると、どの程度の理解ができているかがよくわかります。最終的にはプリントを提出させて確認をしますが、どの段階でどの程度書けているかの確認は机間指導などで行います。生徒は常に5W1Hに着目して読みとりを進めますので、意味がわからない箇所があっても、自分の5W1Hメモを参照して要約できるようになります。

また、登場人物の気持ちを問うたり、登場人物がなぜこのような言い方をしたのかを考えさせるような発問をしたりすることで、読みとりの深さを評価するようにしています。英文を読みとる技能だけでなく、題材のよさに深く共感したりする心を育てたいと考えているからです。

④実践の留意点

授業で行う各活動の方法や意義を、最初は時間をかけて指導していくことが大切です。そして、各活動には必ず名前を付けるようにしています。活動の方法を継続して指導すれば、「Let's start Hitasura-Writing!」と指示するだけで、生徒が活動を始めるようになるからです。

余談ですが、先日の参観授業で「5W1H Reading」をしていたところ、「英語の指示でうちの子がちゃんと活動できていて驚いた」という感想をいただきました。難しいことはしていません。毎日している活動のルールを英語で言っただけなのです。

教師が英語を使うということばかりを考えると、難しいことを多く説明してしまいがちで、生徒は理解できません。「英語で説明されてもわからない」と私自身も何度も言われてきました。英語で行う授業のポイントは、教師が英語を使うことで、生徒が英語を使って主体的に活動する機会を増やすことに

あることを忘れてはいけません。

ここで紹介した「5W1H Reading」は、生徒が慣れくると30分程度で終了します。残りの時間は、Q&AやT-F Quiz、文法事項の説明や本文の内容の解説などに時間をあてています。また、「5W1H Reading」の活動例を示しましたが、その他の活動を取り入れたり、その手法としてペアやグループでの活動を設定したりする工夫も考えられます。

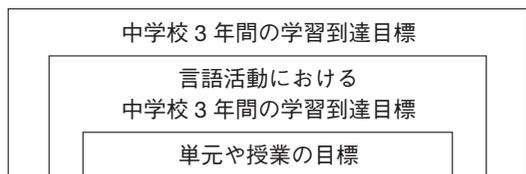
⑤「CAN-DO リスト」を生徒に

生徒に対しては、活動のルールや意義を説明するとともに、学習到達目標を示す必要があります。しかし、これまでに示した目標設定は、言葉が難しかったり、具体性が足らなかつたりします。「詳細」の意味がわからない生徒もいるかもしれません。そこで、例えば以下のように、生徒向けに書きかえる必要もあります。

教科書の英文を3分くらいで読み、(音読の活動などをしながら)英文の内容を3行の日本語でまとめることができる。

4 まとめ

「CAN-DO リスト」を活用した私の学習到達目標の設定は、まとめると以下ようになります。



毎日の授業実践は、中学校3年間の学習到達目標を達成させるためのものであるという位置付けが重要です。

「先生の英語の授業は、体育とか部活動みたいや」と生徒に言われたことがあります。ずっと走っているような感じなのだそうです。「CAN-DO リスト」のおかげで、生徒の活動を主体とした授業を進めることができていると勝手に解釈し(笑)、今日もはりきって授業に向かいます。

CAN-DO リストに基づいた指導方法と評価方法の工夫・改善

大岩樹生（新潟県新潟市立白新中学校）

1 はじめに

2011年6月に示された5つの提言の中で、現場が一番悩んでいるのはCAN-DOリストの作成ではないだろうか。そして、それを作成することにのみ力を注いではいないだろうか。CAN-DOリストの目的は、「学習指導要領の内容を踏まえた指導方法や評価方法の工夫・改善」を容易にするため、となっている。したがって、むしろ活用方法が問題なのであり、私たちの指導方法や評価方法の工夫・改善が求められているのである。

本稿では、『新潟市立白新中学校3年間の英語の到達目標』（資料1）に基づいた、当校での指導方法と評価方法の工夫・改善について紹介する。

2 読むことの指導方法における工夫・改善

2012年3月に文部科学省から「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DOリスト』の形で学習到達目標設定のための手引き」が示され、読むことにおいて、教科書本文とは異なるテキストで達成度を測るよう例示がされた（同書、p.18）。これを受けると、読むことの評価においては、毎回ではないかもしれないが、教科書とは異なるテキストを用いることが必要になり、そのこともCAN-DOリストに盛り込まれる必要があると考える。そこで、当校のCAN-DOリストに基づいた取り組みを紹介する。

①リーディングにおける指導の手順

当校のCAN-DOリストでは、「読むこと」の「レベル3」は次のようになっている。

「教科書本文と内容的にも形式的にも似た、未習語を含む100語程度の文章（物語文、説明文）を読んで、要旨を述べたり、内容を表に整理したりすることができる」

これは、NEW CROWN 1年 LESSON 7 USE Read “Wheelchair Basketball” を想定しての文言である。つまり、車いすバスケットの有名選手やルール等がわかれば良いのではなく、別のスポーツの説明文において、同様の情報を読み取ることを求めているのである。

授業においては、新潟大学教育学部教授松沢伸二先生が提唱されている「ジャンル準拠指導」の考えを取り入れ、次の手順で活動を設定した。

～活動の手順～

I 学習タスク

i 教科書本文を初見で読ませる

- ・事前に New Words の導入はしない。
- ・読み取った情報を表に整理する活動の設定
- ・活動にかかった時間、表に正しく記入できなかった情報量などから WPM を算出させる。

ii 読みの成果を共有するなかで、テキストを分析し、読み方を指導する（今回は説明文）

- ・未習語の推測の仕方（Guessing Skills（推測スキル）の提示）
- ・Topic Sentence から段落の要旨をつかむ等

iii 指導内容を評価基準表としてまとめ、提示する

- ・当校で使用しているパフォーマンスノートに添付させる。

II 練習タスク（回数は単元によるが、2回程度行うことが多い）

学習タスクで課したテキストと内容的にも形式的にも類似した自作のテキストを提示し、同様のタスクを課す。また、学習タスク同様 WPM を記録させ、達成度を測る1つの指標とする。

III 評価タスク

練習タスクと同じ手法で、定期テスト等を行う。ここでの得点を総括的評価のデータとする。

② 1年 LESSON 7 USE Read のリーディング

昨年度の1年生では、学習タスクとして「車いすバスケットボール」を扱った後、練習タスクで「車いすテニス」と「セバタクロー」を提示した。その後定期テストにおいて、評価タスクとして「ハンドボール」（資料2参照）を提示した。全てにおいて、「スポーツ名」「有名選手」「主なルール」を表にまとめるというタスクを課し、その記述の正否を加味したWPMを算出するなどし、読みの達成度を測る指標の一つとした（GTEC for STUDENTS の「田尻悟郎のWebsite Workshop」参照）。

教科書本文の和訳をいくら書かせても、生徒は読めるようにはならない。大切なのは、授業で学習した読みのスキルに汎用性をもたせ、初見の文章でも、それらを用いて読み解くことができる生徒を育成することである。そのために、この単元でどのような読み方をさせるのか、そのためにどう教えなければならないのか考える必要がある。

筆者の以前の指導方法と大きく変化したのは、学習タスクの「ii テキストの分析」である。単元に入る前に、練習タスクと評価タスクを作成していたので、教科書本文と共通の語（句）、文がわかっていた。それゆえに、どの語（句）がキーワードであるのか、表に必要な情報を記入する際、どこを見ればいいのかなど、あくまでタスクを達成する上での読み方について、生徒と共有できた。

ひときわ有効だったのが、Guessing Skillsの提示である。「フォニックスのルール」「前後から」「似た単語」「品詞」から推測することと、重要でない語を「飛ばす」ことである。読みの成果を共有する中で、なぜそのように読み取ったのかをこれらのスキルを用いて説明を促した。

文法訳読方式では、全てを訳させたり、全ての指示語について説明したりするが、この指導法では、あくまでタスクを達成する上で、必要な箇所のみ説明すればよく、生徒もそこに問題意識をもっている。

同じジャンルの似たような説明文のテキストを繰り返し読み、評価タスク時は4回目ということもあり、実に88%の生徒がA評価を得ることができた。これには驚くとともに、なぜもっと早くこのよ

うな指導法ができなかったのか後悔した。

③ 2年 LESSON 2 USE Read のリーディング

1年時の実践を受け、当校のCAN-DOリスト、「読むこと」の「レベル4」は次のようにした。

「教科書本文と内容的にも形式的にも似た、未習語を含む150語程度の説明文を読んで、Guessing Skillsを用いながら、特定の情報を見つけ、表に情報を整理することができる。」

レベル3がskimming「大意把握読み」であったのに対し、レベル4ではscanning「情報検索読み」の力を付けさせたいと考えた。そこで、LESSON 2 USE Readの“A Calendar of the Earth”で描かれている1～12月のカレンダーのみ与え、そこに「1月1日 地球誕生」「46億年前」というような情報を記入させるタスクを課した。

学習タスクの「読みの共有」で、博物館の文章では各段落のTopic Sentenceに着目すると素早く必要な情報を得られることや情報が時系列に書かれていることなどが挙げられた。ここで得られた読みのスキルに汎用性をもたせるために、練習タスクとして「乗り物の歴史」「手紙、電話の歴史」を、評価タスクとして「時計の歴史」（資料3参照）を与えた。

今回の評価タスクにおいては、70%の生徒がA評価を獲得した。1年時よりも教科書本文と同じ語（句）、文が少なかったこと、語数が増えたことにより、A評価をとった生徒は減少したが、それでも、生徒の読みの力が劇的に付いていることを実感した。

③ 書くことの評価方法における工夫・改善

前項では、receptiveな活動である「読むこと」に関する実践を紹介したので、ここではproductiveな活動である「書くこと」に関する取り組みを紹介し、評価方法における工夫・改善について述べる。

① 2年 LESSON 1 USE Write 春休みの思い出

当校のCAN-DOリストでは、「書くこと」の「レベル4」は次のようになっている。

「自らの体験や経験について、辞書等を用いて、

50 語程度で日記形式にまとめることができる」

基本的には、前章で示した「ジャンル準拠指導」に基づいた手順で活動を設定した。

ここで、「評価タスクをどうするか」ということが問題になった。「先週末の出来事を日記形式でまとめなさい」というタスクを課した場合、生徒一人一人が違った週末を過ごしており、表現したいことに大きな差が生じ、不公平感が残ってしまうからである。かといって、評価しないわけにはいかない。悩んだ上で、次のような手順で指導した。

②日記における指導手順

I 学習タスク

- i 教師のモデル日記の提示
- ii モデルを分析し、「内容」「構成」「言語」の面から特徴を共有し、評価基準表としてまとめる
- iii 評価基準表に照らし合わせた際に不十分さがある日記を与え、その不備を推敲する
- iv 自分の先週末の出来事を日記で記述する（一度自分の文章を書いてみた時点で、書き方についての学習を終了した。）

II 練習タスク

教師から提示された Mike の昨日の行動に関する情報を踏まえて、Mike になったつもりで、日記で記述する

III 評価タスク

定期テストにおいて、(II 同様に) Ken の昨日の日記を記述する

自分の日記ではないが、全員が同じ情報に基づいて日記を記述することになったので、評価の公平性が保たれた。また、II と似たような情報を与えたことから、評価タスクにおいて、辞書は必要なかった。

評価タスクはいつも定期テストで課すとは限らないが、評価の公平性を保つには、自分のことではない、第三者のことについて全員が同様に記述するタスクも仕方がないことであると考えている。

また、定期テストの採点においては、「評価基準表」に基づき、採点した。また、評価基準表に「単語のスペルや語順に誤りなく」という文言を設定してい

ないため、主語、動詞が抜け落ちているようなグローバルエラー以外のマイナーエラーは可とし、8割以上が書ければ A、6割以上は B とした。以前の指導では、「1文2点（内容面1点、形式（文法）面1点）のように採点していた。しかしながら、「日記という形式」で書き表せることが最も大切であることを踏まえると、マイナーエラーに寛容になれる。

4 成果と課題

上記のような実践をして、次のような成果と課題があると捉えている。

【成果】

- ・一発勝負ではなく、練習する機会が充実しており、生徒は緩やかに力を付けていく。
- ・パフォーマンスノートに CAN-DO リストに関わるワークシート等を貼付しているの、成長の過程が可視化され、充実感が見て取れる。
- ・未習語にもひるまず、推測するようになった。
- ・似たような活動を繰り返し設定することから、Classroom English の定着が図られやすい。

【課題】

- ・活動の設定に時間がかかる。
- ・他の英語科教員との打ち合わせが増える。

5 終わりに

新潟県の高校入試では長文問題が2問出題される。また、「スピーチの原稿作成」や「手紙」など5文程度のライティングも課される。今まで、私たちは、生徒にこれらを乗り切る「わざ」を授けてきたか？ 筆者の答えは No である。教科書で教えると言っておきながら、教科書を教えてきたように思う。教科書本文と内容的にも形式的にもパラレルなテキストを作成するのは容易ではない。しかし、生徒の力を付けるために、時代のニーズに合わせ、私たちの指導方法、評価方法も改善していく必要がある。大変だからこそ、学校内、学校間の協力関係をより一層強め、多文化共生社会を生き抜くためのコミュニケーション能力の基礎を育成していきたいものだ。

資料1 新潟市立白新中学校3年間の英語の到達目標 (拡大版は三省堂英語教科書ウェブサイトに掲載予定)

学年	レベル	Listening	Reading	Writing	Speaking
3	8	100語程度の他人紹介を読み、その人物の(職業)や「驚かされる理由」等について詳しい内容を表にまとめることができる。 具体的な活動例 LESSON 6 USE Mini-project	300語以上の初見の単語や200語以上の初見の説明文を、辞書を用いずに読んで、そのあらすじや要旨を記述することができる。 具体的な活動例 Further Reading 2,3	他人紹介や手紙の作成において、与えられた情報から必要な情報を抽出し、辞書を用いずに、適切な段落を構成し、まとまりのある文章を記述することができる。 具体的な活動例 LESSON 6 USE Mini-project 尊敬する人物を紹介しよう LESSON 8 USE Write 手紙を書こう	日本特有の物や生活用品について、何も見ずに、50語程度の英語で、想像的に説明することができる。 具体的な活動例 LESSON 5 GET Part 1 Practice
	7	簡単なニュースの概要を聞いて、その大まかな内容(「いつ」「どこで」「何があったか」)を把握することができる。 具体的な活動例 LESSON 4 USE Listen 報道番組に挑戦	教科書本文と内容的にも形式的にも似た、250語程度の文章(物語、説明文)を読んで、要旨を述べたり、内容を表に整理したりすることができる。 具体的な活動例 LESSON 3 GET part 2, LET'S READ 1	インタビュー等から得た情報を用いて、まとまりのある文章を記述する。 具体的な活動例 LESSON 3 Mini-project 先にインタビュー	電話や遠隔地での対話において、与えられた状況設定のもと、想像的に目的を達成することができる。 具体的な活動例 We're Talking 1 遠隔地をしよう We're Talking 7 電話をしよう
2	6	世界の国についてのスピーチを聞き、その国の特徴を表に整理することができる。 具体的な活動例 LESSON 8 USE Mini-project 世界の国を知ろう	他人についての250語程度の初見の文章を読み、内容理解に関わる英語の質問に答えることができる。 具体的な活動例 LET'S READ 2 Landmines and Aki Ra	興味のある国について、辞書等を用いて、100語程度で紹介することができる。 具体的な活動例 LESSON 8 USE Mini-project 世界の国を知ろう	クラスでとったアンケート結果等を基に、発表原稿を作らずに、グラフを用いて傾向を40語程度で説明することができる。 具体的な活動例 LESSON 7 USE Speak 人気があるものは何?
	5	仲間の夢についてのスピーチを聞き、「夢」と「その理由」について述べるすることができる。 具体的な活動例 LESSON 5 USE Mini-project スピーチ「私の夢」	ガイドブックやパンフレットの130語程度の説明文を読み、絵や写真も参考に、英語の質問に答えることができる。 具体的な活動例 LESSON 3 USE Read For Our Future LESSON 4 USE Read Enjoy Sushi	自分の住んでいる地域の特色について、簡単に50語程度で紹介することができる。 具体的な活動例 LESSON 4 USE Write 町の名所を紹介しよう	自分の夢について、40語程度で事前に用意した原稿を覚えて、仲間に発表することができる。 具体的な活動例 LESSON 5 USE Mini-project スピーチ「私の夢」
1	4	ニュースの天気予報を聞いて、各地の天気や気温等の情報を記述することができる。 具体的な活動例 LESSON 3 USE Listen ニュースに挑戦	教科書本文と内容的にも形式的にも似た、未習語を含む100語程度の文章(物語、説明文)を読んで、要旨を述べたり、特定の情報を見つけ、表に情報を整理することができる。 具体的な活動例 LESSON 2 USE Read A Calendar of the Earth	自分の体験や経験について、辞書等を用いて、50語程度で日記形式やエッセイ形式にまとめることができる。 具体的な活動例 LESSON 1 USE Write 春休みの思い出 LESSON 2 USE Mini-project 自分史エッセイ	仲間に週末の予定について尋ね、そのインタビューのメモを用いて、別の仲間に20語程度で紹介することができる。 具体的な活動例 LESSON 3 USE Speak 休日の予定は?
	3	海外の学校紹介等についての70語程度の紹介文を読み、聞き取った情報をメモすることができる。 具体的な活動例 LESSON 8 USE Mini-project ホームページを作ろう	教科書本文と内容的にも形式的にも似た、未習語を含む100語程度の文章(物語、説明文)を読んで、要旨を述べたり、内容を表に整理したりすることができる。 具体的な活動例 LESSON 7 Wheelchair Basketball	自分の学校のことについて、辞書等を用いて、30語程度のまとまりのある文章で記述することができる。 具体的な活動例 LESSON 8 USE Mini-project ホームページを作ろう	電話で使われる表現を用いて、想像的にカードに書かれた内容を伝えることができる。 具体的な活動例 We're Talking 7 電話をしよう
1	2	名前、年齢、出身等についての対話や自己紹介を聞き、情報を表にまとめることができる。 具体的な活動例 LESSON 1	家族等の写真についての50語程度の紹介文を読んで、読み取った情報を表にまとめたり、内容理解の質問に答えたりすることができる。 具体的な活動例 LET'S READ 1	ある動物について、その身体の特徴や行動の様子等に触れながら、辞書等を用いず、想像的に15語程度の英文で記述することができる。 具体的な活動例 LESSON 7 GET 2 Practice	LESSON 6 USE Mini-project 友達を紹介しよう
	1	"Look at the blackboard."や"Raise your hand."等の簡単な英語の指示を聞いて、具体的な行動に移すことができる。 具体的な活動例 Simon Says	30語程度の自己紹介文等を読んで、読み取った情報を表にまとめることができる。 具体的な活動例 LESSON 3 Mini-project	辞書等を用いながら、15語程度で簡単な自己紹介文を記述することができる。 具体的な活動例 自己紹介	原稿を見ずに、15語程度で簡単に自己紹介をすることができる。 具体的な活動例 LESSON 1

資料2 リーディングレベル3 評価タスク

Handball

Do you know about handball? Many people play it in Japan.

This is Mr Miyazaki Daisuke. He plays handball very well. He can jump very high and shoot very well.

What are some rules of handball? Seven players are in one team. They can't hold the ball too long. They can walk one or two steps with a ball. It's like basketball. They shoot a ball at a goal. It's like soccer.

Handball is very exciting. Let's watch a game.

写真

写真

(80 words)

資料3 リーディングレベル4 評価タスク

A Calendar of Clocks and Watches

Many students at Hakushin JHS have watches on their wrists. We can learn the time with them, so they are very convenient. The first clock was born about 5,500 years ago. This is a very long time. When we make a one-year calendar of its history, we can understand it easily. Let's do it!

A sundial appeared in Egypt on January 1. It was a simple clock. They used the sun and the shadow. But they didn't know the time at night.

A sand glass appeared on September 10, about 1,700 years ago. We use it now, too. We can usually count three minutes with it.

A clock appeared in Italy on October 23, about 1,050 years ago. Its time was correct! But it was very big at that time.

A watch appeared in Switzerland on the morning of December 17, about 220 years ago. What comes next in the future?

(151 words)

※ 下線部は教科書本文と同じ語(句)、文

CAN-DO リスト作成のための資料一覧

『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』 (http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm)

2011年6月の「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」を踏まえて出された「手引き」。CAN-DO リストの趣旨や設定手順、目標例、Q&Aなど、作成・活用について詳しく記載されている。

CEFR-J (<http://www.cefr-j.org/>)

外国語教育のための共通参照枠として欧州評議会が開発されたCEFRに準拠し、それを日本の英語教育の枠組みに適用したもの。2012年3月に一般公開された。

『CAN-DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック (CD-ROM 付)』

(投野由紀夫 編, 大修館書店)

上記CEFR-Jのガイドブック。CEFR、CEFR-Jの詳しい解説やCEFR-Jのレベル別の活用や検証結果など、CEFR-Jの研究がまとめられている。CAN-DO ディスクリプタデータベースや、語彙表、アンケート結果などが収録されたCD-ROM付き。

英検 Can-do リスト (<https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/cando/list.html>)

日本英語検定協会が2003年5月から約3年の歳月をかけ、延べ20,000人を超える合格者に対し、「具体的にどのようなことができる可能性があるか」ということをアンケート調査し、リスト化したもの。「英検合格者の実際の英語使用に対する自信の度合い」というサブタイトルがつけられている。

GTEC for STUDENTS can-do statements (<http://gtec.for-students.jp/cando/>)

1998年のGTEC for STUDENTSに伴って開発されたProficiency Guideline (習熟度ガイドライン)に続く形で開発されたCAN-DO リスト。テスト・スコアのフィードバック機能を高めることを目的として始まった。各グレードの実際の英語使用経験の出来に基づく。このCan-DO リストは、日本全国のSELHi校の研究に広く用いられている。2005年からの妥当性の検証に基づき、2011年に改訂された。

平成 24 年度版 NEW CROWN Teacher's Manual ②指導編

『Can-do リストによる到達目標』

CEFR-Jのβ版をもとに、平成24年度版のNEW CROWNの要素を取り込んで作成したもの。

三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14 電話 03-3230-9411 (編集)・9412 (営業)

ウェブサイト <http://www.sanseido-publ.co.jp/>

●大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3 電話 06-6341-2177

●名古屋支社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-25-43 瑞穂ビル4F 電話 052-252-9211・9212

●九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 電話 092-531-1531・1532

●札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル3F 電話 011-616-8722